

## 2017（平成 29）年度 清教学園中・高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

「神なき教育は知恵ある悪魔をつくり、神ある教育は愛ある知恵に人を導く」という建学の精神のもと、「一人ひとりの賜物を生かす」ことのできる質の高い人間教育を行うことを目指す。

#### 清教学園の目指す人間像

- ①神を信じ誠実に仕える
- ②真理を学び賜物を生かす
- ③隣人と共に平和を築く

### 2 中期的目標

教育の質的向上 ～清教「らしさ」・清教メソッドの確立、および運営の質的向上～

#### 1 教育の質的向上

- (1) 学力伸張を図る
- (2) 社会自立・自己実現に向けた夢を育て、志を形成する
- (3) 高い倫理観と Servant Leadership を育成する \*Servant Leadership:「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後、相手を導くものである」という考え

#### 2 生徒における学校生活の充実

- (1) 特別活動の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 生徒支援

#### 3 環境整備力の向上

- (1) 施設の充実
- (2) 外部環境への対応
- (3) 情報の共有化と発信力の促進

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2017年11月・12月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>&lt;評価結果の高かった項目&gt;</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は充実した学校生活を送っている (中学生：93.1%、高校生：87.1%)</li> <li>・学力向上につながる授業が多い (中学生：88.4%、高校生：82.1%)</li> <li>・宗教・人権教育が重視されている (中学生：87.4%、高校生：86.8%)</li> <li>・規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がなされている (中学生：88.5%、高校生：87.9%)</li> <li>・姉妹校による交流や語学研修・留学制度が充実している (中学生：94.9%、高校生：89.2%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い (中学生：86.5%、高校生：81.2%)</li> <li>・家庭への連絡は適切に行われている (中学生：80.8%、高校生：81.4%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知り合い等に入学を勧める (中学保護者：84.2%)*高校保護者：78.8%)</li> <li>・規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がなされている (中学保護者：94%、高校保護者：94.5%)</li> <li>・熱心に指導してくれる先生が多い (中学保護者：91.7%、高校保護者：89.9%)</li> <li>・家庭への連絡は適切に行われている (中学保護者：85.0%、高校保護者：85.4%)</li> <li>・PTA活動が盛んである (中学保護者：94.8%、高校保護者：91.9%)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は充実した学校生活を送っている。(97.9%)</li> </ul> <p>&lt;評価結果の比較的低かった項目&gt;</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公平な教員が多い (中学生：68.3%、高校生：64.3%)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の授業で十分な学力がつく (中学保護者：59.4%、高校保護者：63.6%)</li> </ul>	<p>学校法人清教学園評議員会をもって学校関係者評価委員会とする。なお、評議員の選定は、寄附行為に基づき、学識経験者、学園卒業生、および学園教職員の3つの枠を設けた上で行われている。</p> <p>2017（平成 29）年度については、2018（平成 30）年 3 月 31 日に学校関係者評価委員会を開催した。</p> <p>&lt;意見&gt;</p> <p>【学識経験者】</p> <p>○「熱心に指導してくれる先生が多い」という点については、これまでと変わらず高い評価をいただいている。この事項は生徒の将来を紡ぐ学校教育という場面では最も基本となるものであり、これからも高い評価をいただけるように努力を続けられたい。</p> <p>○授業を通じた生徒の成長を図るにあたっては、新しい学力観のもと、これまで以上に、多岐にわたる教育内容をそれぞれの個性あふれる生徒たちに適うものに掘り下げていくということが重要である。「学校の授業で十分な学力がつく」という点については、生徒から高い評価を得ているのに加えて保護者からもいっそうの納得をいただくべく、教職員の知性・教養と魅力ある授業実践でもってより良い成果を生み出されたい。</p> <p>○勉強と部活動との両立については、高校 2 年での評価が例年低くなりがちである。このことは、成長過程の充実期にある高 2 生たちが、勉強・課外活動・特別行事のすべてにおいて中心となり多くの場面で活発に活動できているということの裏返しであるとも思われる。ただ、その一方で、カリキュラムにおける遂行上での課題が生徒たちに生じていないか、日ごろからきめ細やかにチェックしていくことも必要である。</p> <p>○本校の校風をより良いものにするために、各種活動におけるバランスや時間管理についてさらなる工夫を期待すると同時に、また施設設備面でも、私学ならではの教育環境が整えられるように必要な準備を進めていただきたい。</p> <p>○「心の教育」に関わる事項については、前回よりも高い評価をいただいている。宗教教育と言え、これまででは生徒にとって受け身になることが多くなりがちだったかもしれないが、学校参観等の機会に生徒たちの様子を見ると、中 3 生がオーストラリア・グローバル研修で海外での礼拝を体験してきたことを契機に、生徒たち自身が積極的に礼拝に参加するという雰囲気学内でいっそう高まってきたように思われる。キリスト教主義学校として、生徒における主体的な参加意識の醸成をさらに進めてほしい。</p> <p>【学園卒業生】</p> <p>○生徒の挨拶やきちんとした服装を見ると、学園の教育方針のもとに教員がしっかりと指導しているというのがよく分かる。来校者に対する生徒の笑顔での挨拶は、清教生の良いところだと広く認められている。ぜひこの良い点をこれからも守ってほしい。</p> <p>○SGH アソシエイト校としての発表会等の実施、また e-ポートフォリオなど先進的な ICT 活用の進展といった形で、さまざまな取り組みに前向きにチャレンジしている姿勢をこれからも持ち続けてほしい。</p>

<p>&lt;全体総括&gt; SGH アソシエイト校としての主体的な取り組みが軌道に乗り、生徒達の間グローバルな感覚が浸透し、その他の様々な新しい取り組みも生徒達の知的好奇心を刺激し、学園生活の充実度が増している。施設改善も好評かを得ている。その一方で、学習面に対する不安も現れてきている結果となった。今後、本校の「文武両道」とくに学習面について見直しが必要であると認識する。</p>	
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育の質的向上	<p>(1) 学園の教育理念への十分な理解に基づく学業生活の推進</p> <p>(2) 学力向上をもたらす学習指導の工夫、および生徒の自主的な学習姿勢の育成</p>	<p>ア. 礼拝への積極的な参加を促すことをはじめ、こころの教育のさらなる充実を図り、宗教・人権教育が重要視されていることが十分に理解されるように努める。</p> <p>イ. バランスの取れた教育活動を通じて、生徒の自律・自立を促し、自己肯定感を高める取り組みを推進する。</p> <p>ウ. グローバルリーダー育成のプログラムをさらに積極化・多様化させ、生徒において国際交流活動が身近なものだとさらに認識されるように図る。</p> <p>エ. ICT等の積極的な活用をはじめ、生徒における授業内容の理解を促すような工夫を継続する。</p> <p>オ. 個々の生徒における学習到達状況を把握し、各人の学習意欲を受けとめられるような丁寧な指導に努める。</p>	<p><b>学校評価アンケートにおける結果を分析することを通じて評価するのを基本とする。</b></p> <p>建学の精神に関する理解、および宗教・人権教育の重要視する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→前者については生徒：中87%、高73.8%、保護者：中90%、高85.2%、教員：69.4%、また後者については生徒：中90.3%、高82.8%、保護者：中97.5%、高92.5%、教員79.6%)</p> <p>生徒が充実した学園生活を送っているかに関する評価結果は全ての評価対象者枠において80%以上 (前年度→生徒：中95.8%、高86.2%、保護者：中95%、高91.2%、教員100%)</p> <p>グローバル教育(語学研修や留学)が充実しているかに関する評価結果がどの評価対象者枠においても85%以上 (前年度→生徒：中92.6%、高92%、保護者：中96.5%、高91%、教員97.9%)</p> <p>学力向上につながる授業が多い(主要5教科平均)および電子黒板・個人情報端末の学習効果に関する評価結果がどの生徒においても80%以上 (前年度→生徒：中88.1%、高81.3%)</p> <p>「学校のみで十分な学力がつく」「理解が不十分なときに面倒を見てくれる」に関する</p>	<p>建学の精神に関する理解については、中学生(86.7%)、および前年度に続き中高とも保護者からの評価が高い(中学86.5%、高校91.4%)。教員では若干上昇した(78.7%)が、80%には届かなかった。また、高校生においては前年度並み(74.7%)の評価に留まった。学園の教育方針に触れる機会を多面にわたって増やす必要が更にある。また宗教・人権教育については、全ての評価対象者枠において80%以上となり、大きな改善がみられた(教員80.8% 中学生87.4% 高校生86.8% 中学保護者95.5% 高校保護者91.4%)。(△/○)</p> <p>中学生93.1%・高校生87.1%、中学保護者92.5%高校保護者94.5%、教員97.9%と、前年度に引き続き全ての評価対象者枠において80%以上の好評価が達成された。賜物を生かすことを念頭に、それぞれの生徒に対する丁寧な指導を引き続き行っていきたい(○)</p> <p>グローバル教育については、取り組み内容がさらに充実し様々な工夫が施されたことから、前年度に引き続き全ての評価対象者枠において80%以上、高校生を除いては90%以上の好評価が達成された(教員100% 中学生92.9% 高校生89.2% 中学保護者97% 高校保護者92.5%)。(○)</p> <p>中学生は、前年度とほぼ同じ、全体平均で88.4%という評価結果であった。数学・英語は90%以上であったが、国語・理科・社会は80%台であった。しかし全体としてはまずまず高い数値と言える。高校も前年度とほぼ同じ、82.1%であった。数学・英語・理科・社会は80%台であったものの、国語70%台であった。さらなる研鑽が望まれる。一昨年度から取り組んでいるアクティブ・ラーニングを発展・継続させつつ、満足度向上に努めてゆきたい。電子黒板の効果について中学生は88.5%とまずまずの評価であるが、昨年度の94.0%よりは後退した。今年度の高1より導入した個人情報端末について高1は72.29%と今ひとつの評価であった。まだ導入後の産みの苦しみの段階であるが、今後一層の活用拡大を通じて満足度向上を図りたい。(△)</p> <p>中学生は80.0%と昨年度の83.8%から下降した。高校生は75.4%と昨年度の73.0%よりは改善したものの、まだ80%には届い</p>

1 教育の質的向上	(3) キャリア教育の拡充を含む進路指導の充実化	カ. 生徒の自主的な学習姿勢および課題発見・解決力を育成するために図書館教育の機能をさらに有効化させる。	<p>る評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中83.8%、高73.0%、保護者：中74.9%、高65.7%)</p> <p>「図書館教育は知的関心を高める」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中93.9%、高79.9%、保護者：94.9%、高83.6%)</p>	<p>ていない。この観点では保護者の評価も低く、中学保護者66.2%、高校保護者69.2%にとどまっている。高大接続改革（大学入試改革）をはじめとする中高を取り巻く環境の変化により、より学習を重視する流れは保護者を中心に強まっていると感じられる。学習活動と課外活動のバランスを改善していくことが必要である。理解が不十分な生徒に対してのフォローの方法も従来とは異なる取り組みが求められている。個人情報端末導入により、生徒一人一人の理解度に合わせて最適な教材を提供するアダプティブ・ラーニング用プログラムを導入した。授業や補講・追試などに加えてこのプログラムを活用することで、この項目の改善を図りたい。(△)</p> <p>本校図書館「リブラリア」の積極的な取り組みが成果を上げ、昨年は中学生が93.9%という高評価であったが、今年は87.4%とやや下降した。高校は図書館から離れているという不利な面があるが、昨年は79.9%、今年は78.1%と80%まであと一歩である。引き続き取り組みを継続していきたい。(△)</p>
		キ. 将来つきたい職業のイメージを喚起できるような機会を増やし、進路に関して明確な夢・目標が持てる指導を図る。	<p>「将来の進路・職業の適切な指導を行っている」に関する評価結果が生徒・保護者において80%以上 (前年度→生徒：中79.0%、高76.4%、保護者：中79.2%、高80.6%)</p>	<p>中学生では昨年度79.0%、今年度79.5%と横ばいで、80%を上回ることができていない。低学年からの進路への意識付けが必要である。高校生では昨年度の76.4%から今年は82.4%へと上昇した。卒業生進路講演会、大学の出張講義、大学見学ツアーなど例年の取り組みに加えて、今年度から高1・高2全員で夢ナビライブに参加し、進路に関する意識向上に努めていることが奏功しているかもしれない。ここでも、個人情報端末を活用した新しい取り組みを考えていきたい。(△)</p>

2 生徒 にお ける 学校 生活 の充 実	(1) リーダーシップの育成にも資する特別活動の充実化	ア. 生徒が主体となって参加・運営する学校行事のあり方を追求していく。  イ. 勉学と課外活動の両立を謳う本校においてはとくに、両者のバランスがきちんと確立されているということが求められており、学内外の関係者において納得してもらえる状況を作っていくのが重要である。	「学校行事は生徒が積極的に参加できるように工夫されているか」に関する評価結果が高校生以外の評価対象者枠において80%以上 (前年度→生徒：中92.1%、高69.5%、保護者：中97.5%、高82.8%、教員：87.8%)  「部活動は勉強時間が確保できるように配慮されているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中75.9%、高56%、保護者：中77.4%、高60.5%、教員61.2%)	中学生、保護者、教員においては高い評価を得たが(いずれも90%超)、高校生については前年度より改善はしたものの約2割強の生徒は課題があると感じている(23.0%)。文化祭の実施を含め、行事に多様性を施す工夫を前向きに検討したい。(△)  前年度に引き続き、評価は高くなかった。(いずれも80%未満)。多くの関係者がさらなる配慮を求めていることは明らかであり、「文武両道」にふさわしく、けじめを大切にしながら、部活動の成果と学習面における指導との両輪が揃う方法を、検討しなければならない。(△)
	(2) 社会性の高まるような生徒指導の充実化	ウ. 規則遵守の促進、美化意識の向上、いじめのない学校作りへの取り組みを通じて、学校生活における基本的環境を整えられるように図る。	「規則遵守やマナー・美化意識等を高める指導がされているか」・「いじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる」・「生徒が問題行動を起こしたときにきちんと対応している」に関する評価結果の平均値がすべての評価対象者枠において80%以上 (前年度(平均値)→生徒：中86.0%、高82.5%、保護者：中89.7%、高90.1%、教員93.6%)	前年度に引き続き、中高とも保護者・教職員から高い評価を得ている(いずれも約90%)。中学生においてはここ数年評価が高く(88.9%)、高校生も80%を超える評価となり、生徒の高い意識がうかがえる。今後はさらに高い評価が得られるよう指導をしていきたい。(○)
	(3) 生徒が安心して学校生活がおくれるような生徒支援の推進	エ. 学校生活の基盤たる健康の促進を図るべく、生徒における健康意識の醸成に努める。  オ. 生徒のメンタルヘルスの維持のため、親身になって対応にあたるように努める。それにあたっては、専門家との連携も進め、カウンセリングマインドの醸成をさらに図りたい。	「保健教育を通して健康管理の大切さについて意識を高める指導がされているか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中81.0%、高75.6%、保護者：中84.0%、高84.2%、教員：93.9%)  「悩みや相談に親身になってくれる教員がいるか」に関する評価結果がどの評価対象者枠においても80%以上 (前年度→生徒：中77.8%、高77.0%、保護者：中85.9%、高82.1%、教員98.0%)	前年度に引き続き、高校生を除いては全ての評価対象者枠において80%超の高い評価となっている。特別号を含めると年間15回ほどの「保健だより」の発行や生徒や保護者への丁寧な対応などが効果的であったと考える。唯一、80%に達していないのが高校生だが、78.4%と少し改善した。高校生向けの配布物や掲示など発信力を高めたい。(△)  保護者における評価が高い一方で(中学82.7%、高校84.4%)、生徒における評価は80%に届いていない(中学71.9%、高校72.3%)。中高とも、昨年度よりは数値が少し下降してしている。教員の自己評価(95.8%)との乖離が広がっている。引き続き生徒の悩みとするところをきちんと把握し、生徒が安心して相談ができるように、教員のカウンセリングマインドの醸成に努めたい。(△)

3 環境 整備 力の 向上	(1) 施設の充実	ア. 自習室の環境をより良いものとし、生徒たちが自 学自習の習慣を身につけられるように図る。	「自習室は利用しやすいか」 に関する評価結果がどの評価 対象者枠においても80% 以上 (前年度→生徒：中81.5%、高 74.1%、保護者：中84.4%、 高82.3%、教員93.8%)	昨年は改善したが、中学生の下降が大きい。 (81.5%→62.1%) 学年別に見れば中1 (61.9%)・中3(75.4% [前年中2]→56.9% [本年中3])の満足度が低い。ラーニングコ モンズ(LC)の環境は監督者がいる事などか ら、良好な状態が保たれている。従ってここ で回答している自習室とは学年単位で運営し ている自習室と考えられ、その環境に何らか の変化が見られると思われる。更なる分析、 改善が必要である。(△)
		イ. 利用しやすい食堂となるように改善を進める。	「食堂は利用しやすいか」に 関する評価結果がどの評価 対象者枠においても80%以 上 *高校のみ (前年度→生徒：高68.1%、保 護者：高57.7%、教員65.3%)	前年度同様、全般に低い状況である(高校生 徒69.7%、高校保護者66.7%、教員68.0%)。 グローバルランチ等の工夫も見られるがメニ ュー面、収容スペース面、販売価格、営業時 間面のどれが大きな課題になっているか、更 に調査の上、改めて改善を図りたい。(△)
	(2) 外部環境への対応	ウ. 通学路の保守をはじめ、災害や不審者から生徒の 安全を守るためのさらなる努力を重ねたい。	「災害や不審者から生徒を 守れるか」に関する評価がど の評価対象者枠においても 80%以上 (前年度→中学生83.3%、高校 生75.5%、中学保護者90%、 高校保護者86%、教員 73.5%)。	中学保護者(81.9%)、高校保護者(84.3%) において指標の数値を上回る評価を得たが、 中学生(78.7%)、中高教員(70.2%)とポイ ントを下げている。前年度に引き続き、中高 保護者から厚い信頼は寄せられているもの の、減少幅は小さくない。台風21号の豪雨に より通学路付近に打撃を受けた影響が大きい と見られる。安心安全の確保を最優先の課題 としたい。(△)
		(3) 情報の共有化と発 信力の促進	エ. 保護者との連絡を密に行うことを通じて、生徒の 学内外における状況を的確に把握し、健全な成長を 促す環境形成を図りたい。	「家庭への連絡は適切に行 われている」に関する評価結 果がどの評価対象者枠にお いても80%以上 (前年度→中学保護者87.9%、 高校保護者87.5%)。
	オ. ホームページ等を通じた発信を強化するととも に、生徒たち自身への訴求力もあるような発信内容 の作成を行なって、学内の活性化がさらに図れるよ うに工夫を施したい。		「ホームページや広報誌は 学園の取り組みを知るのに 役立っている」に関する評価 結果がどの評価対象者枠にお いても80%以上 (前年度→中学生82.4%、高校 生66.1%、中学保護者 96.0%、高校保護者88.0%、 教員68.1%)。	どの評価対象者枠においても前年度の数値を下 回ったが、保護者(中学92.5%、高校84.4%) は学園広報に高い関心を寄せている。修学旅 行等の宿泊行事や学校行事、日毎の学習活動 に関する教員からの発信には注目度が高い。 高校生(66.8%)・中高教員(68.1%)の評価 は指標値に達しない。結果の分析と広報活動 のさらなる工夫を試みて行きたい。(△)